

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2024年11月20日第48号 (通巻54号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: oribunokai@gmail.com
facebook:oribunokai
blog: olivenokai.hatenablog.com



再びトランプの時代に、中東は、パレスチナはどこへ行くのか？

2024年11月17日のガザの犠牲者、43736人の殉教者、103370人の負傷者、10000人が行方不明

米国で大統領にトランプが再選された。予測されていたとはいえ、駐イスラエル米国大使に入植地を支持する人物指名するなど、トランプの内閣指名は、「親イスラエルの沼地」と呼ばれている。火曜日、トランプ大統領は自身の Truth Social プラットフォームで、元アーカンソー州知事のマイク・ハッカビー氏を駐イスラエル米国大使に指名すると発表した。この人物は西岸の存在を認めていない。

ハッカビー氏は福音派キリスト教の信仰を公言しており、それを対イスラエル政策に結び付けている。例えば、同氏は何度も聖書を引用し、イスラエル占領下のヨルダン川西岸地区はイスラエル領の一部であると主張している。

福音派は、キリスト教シオニストであり、カソリックで自称シオニストのバイデンのように、「中立」のポーズをとることはない。バイデンは、ポーズを除いては、前期のトランプの政策を踏襲しており、米国大使館をテルアビブにもどすこともなかったし、トランプが作りだした「アブラハム同盟」を継承し、サウジとイスラエルの国交の正常化を図ろうとしてきた。また、入植地に反対するポーズをとっていたが、実効的にそれを阻止する措置をとったことはない。したがって、中東政策につ

いては、トランプになって、転換するというよりも、バイデンの「中立」を装ったポーズがなくなるだけであり、より露骨にイスラエルの利益のために、米国は奉仕することになる。

「理性や常識を超えた狂信的ともいえる思想に、世界で最も巨大な軍需産業と、強力な軍備を誇る米国のイスラエル政策が発揮され、中東における和平を困難にしている」『福音派キリスト教シオニストと迫りくる世界の終わり』(NEWSPICKS 加藤嘉之氏など)

ウクライナへの軍事援助については消極的なものに対して、イスラエルに対しては、軍事援助をとめることはなく、一切の規制を取り除くとトランプは宣言している。

ネタニヤフ首相は、ガラント国防相をトランプが勝利した日に解任。極右のカッツを新しい国防相に任命した。バイデンの圧力がなくなるのを見越して、戦争継続体制を強化した。ガラントは人質解放を優先すべきと訴えて、ネタニヤフと対立していた。

一方で、極右財務大臣スモトリッチは、西岸の併合を主張し始めた。入植地大臣オリット・ストロクは、ガザも西岸も自分たちのものであると主張している。かれらは、トランプがゴランのシリアの占領地をイスラエル領土と認めたように、ガザ、西岸をイスラエル領土と認めることを期待している。

バイデン政権下で米國務省官と防衛長官がイスラエルに30日以内にガザへの人道援助を強化していなければ、

オリーブの会通信 第48号(通巻54号)

武器援助を停止するといっていたが、多少改善しているとして、武器援助の停止を行わないと宣言する茶番。実際には以前よりも減っていることが国連などから報告されている。イスラエルの国連大使は、援助の拡大を行っていると言っただけで、ガザから真実を伝えているアルジャジーラを批難、また、イスラエルの報道でもガザのギャングに援助物資の運搬を攻撃させていると暴露されているにも関わらず、ハマスの攻撃と嘘をついた。米国以外は誰も信じない嘘である。

軍事情勢

イスラエル軍は、ガザ北部の攻撃と封鎖を続け、住民を暴力的に追い出しているし、1000人以上が今年10月以来虐殺されている。食料、水、医療品がなく、飢餓状態に置かれている。また、北部の建物を完全に破壊している。明確にネツリア軸から以北の民族浄化をしようとしている。

レバノンでは、地上侵攻だけでなく、爆撃により、東部、北部、そして、シリアまで攻撃している。また、イランへの報復攻撃を行っている。

抵抗軸は、地上戦での戦闘だけでなく、ロケット、弾道弾などで、イスラエル北部だけでなく、ハイファ、テルアビブまで攻撃を行っている。ネタニヤフの私邸にまでロケットが着弾している。ヒズボラなどは、軍事目標への攻撃を強めており、イスラエル国内も危険な状態になっている。

また、レバノン、ガザでの地上戦で多数のイスラエル兵が殺害されている。戦争の開始以来1000人近い兵士が殺害されており、予備役の兵士など復帰するのを拒否したり、精神的な障害を負ったり、自殺者がでたり、深刻な影響は出てきている。兵員の不足からこれまで徴兵を免除されてきた超正統派ユダヤ教徒にも徴兵令が出ている。

イスラエル軍は、ハマスのヒズボラに勝利しているというが、その力は衰えていず、イスラエルを疲弊させている。とくにヒズボラは、以前より攻撃を強化している状態にある。しかし、イスラエル内でもハマスのヒズボラを壊滅させることは、困難であるといわれてきた。ネタニヤフは、泥沼に入り込むことになっている。

ネタニヤフは、戦闘を強める体制をとっている。しかし、停戦と人質解放をもとめる国内世論に反し、また、軍部の停戦をもとめる声をも消滅させている。しかし、達成することのできない軍事目標のために、イスラエル自身が消耗する危険性が警告されている。唯一米国の援助が戦闘を継続する条件である。

欧州のダブルスタンダード

11月7日にオランダで、イスラエルのサッカーファン3000人が暴行を働いたにも関わらず、それに抗議し、対峙した人々を反セム主義者として逮捕した。3000人のイスラエル人は軍事人として兵役に参加したものであり、占領地の暴力をアムステルダムにもちこんだ、彼らは「アラブを殺せ、イスラエル軍は勝利すると叫び、住居に掲げられていたパレスチナの旗を引き破り、また、アラブ系タクシーの運転手にも暴力を働いた。イスラエルは軍用機を派遣して、これらのイスラエル人ホリガンをも本国に連れて帰った。しかし、オランダ政府とアムステルダム市は、イスラエル側を非難せず、抗議したものを反セム主義と批判し、デモを禁止した。これに対して市民の怒りが爆発し、抗議行動が続いている。

イスラエル政府は、次のフランスでの試合にイスラエル人の観客は行かないように警告している。これには原因があり、イスラエルの警察が、フランス外相がフランスの管理下にあるエルサレムの教会にフランス側のガードと入ろうとしたときに、このガードを拘束するという事態があり、フランス政府を怒らしているからである。また、スモトリッチがフランスを訪問することへの抗議も広がっているからである。

欧州のダブルスタンダードには、イスラエルが何をしようと批判せず、それに抗議する人々を弾圧するという事態が各地で起こっている。イスラエルはアムステルダムの抗議行動をポグロムといったが、ポグロムにさらされているのはアラブ人、イスラム教徒である。

レジスタンスは抵抗を続けている。

イスラエルの主張とは裏腹に、ハマスのヒズボラも抵抗闘争を続けている。ガザでは、ジャバリア周辺でのイスラエル軍とハマスの戦闘が続いている。また、ハマスのだけでなく、イスラム聖戦、人民戦線なども抵抗闘争を続けている。

また、西岸でも、ジェニン、トルカレムなどでの武装抵抗が続いており、イスラエルと入植者の攻撃に対して抵抗している。それに対してイスラエル軍は、ガザに対するのと同じ方法で攻撃している。

ヒズボラは地上戦だけでなく、ロケット、ミサイル攻撃をイスラエル中心部に向かって、連日のごとく攻撃を加え、イスラエルの軍の空爆に反撃している。また、イエメンのアンサールアッラー、イラクの抵抗運動もイスラエルへの攻撃を繰り返している。

抵抗闘争によって、イスラエル軍の損害が拡大しており、ネタニヤフは、停戦を望まず、戦闘の継続をしようとしているが、戦闘の継続は、イスラエルに敗北をもたらすというイスラエル国内からの声も上がっており、こ

のままでは、イスラエル自身が疲弊することとなる。頼みの綱は米国である。米国は、キリスト教シオニストの国であり、イスラエルの意のままに動く。

トランプの登場で、イスラエルは、ガザ、西岸の併合をすすめていくこととなるだろう。しかし、トランプ政権が画策した「アブラハム合意」は、イスラエルのガザと

レバノンへの虐殺で存続を危ぶまれており、また、「アブラハム合意」の敵国であるイランは、アラブ諸国との和解に力を入れ、米新政権の思惑通りにいかないだろう。

抵抗闘争の継続、そして、国際的なイスラエルへの抗議行動が、シオニスト、トランプの画策を打ち破るだろう。



ドナルド・トランプ（左）とベンヤミン・ネタニヤフ。（写真：テルアビブ米国大使館、ウィキメディア）

2024年11月13日 記事、特集

ロバート・インラケシュ著

選出されたすべての人物はキリスト教シオニストかユダヤ教シオニストで、全員がこの問題に対する強硬派である。

ドナルド・トランプが2期目の大統領に選出されると、アメリカ大統領の政権がイスラエルと西アジア政策全般にどう対処するかについて、膨大な憶測が飛び交った。彼の内閣選出から、前任者と同様の攻撃的なアプローチが進行中であることが今や明らかである。

次期米国大統領のアカウントからX（旧Twitter）で行われた最初の発表では、ニッキー・ヘイリー（元国連大使）とマイク・ポンペオ（元国務長官）は新政権に含まれないと主張した。

ワシントンの外交政策体制のタカ派とみなされているこの2人を除外するという選択について、ソーシャルメディア上で広く表明された喜びは、その後の展開によってすぐに打ち砕かれた。

ドナルド・トランプは、親イスラエルのロビー団体から約91万7821ドル（21億9872万円）を受け取っており、熱心なシオニストであるエリーゼ・ステファニックを国連大使に任命すると発表している。

ステファニックは、ハーバード大学の元学長クロディ

ン・ゲイに質問する動画が公開され、今年初めに政治家としての個人プロフィールが上昇した。間もなく国連大使となるこの女性は、「川から海まで」と「インティファダ」を「ユダヤ人殺害を擁護している」と怒りを込めて非難した。

エリーゼ・ステファニック氏とトランプ政権の他の関係者が、大学キャンパスでの言論の自由を積極的に損なったり、学術機関全体を検閲したりしていることは、米国大統領がイスラエルに関する言論の自由を制限しようとしていることを示している。

ドナルド・トランプ氏は5月、親パレスチナ派の学生抗議運動について「私が再選されれば、この運動は25年か30年後退することになる」と述べ、学生の国外追放を提案した。ステファニック氏は下院議員として、言論の自由を損なう10の親イスラエル法案に賛成票を投じている。

トランプ氏がイスラエル大使に選んだのは、熱狂的なキリスト教シオニストのマイク・ハッカビー氏で、ハッカビー氏はヨルダン川西岸という言葉を使うことを拒否し、代わりにこの地域を「ユダヤとサマリア」と呼ぶと公言している。また、キリスト教シオニストの熱狂的支持者であるのが、新首席補佐官のスージー・ワイルズ氏だ。トランプ氏が中東特使に選んだのは、ユダヤ系の頑固な

シオニストで実業家のスティーブン・ウイトコフ氏だ。

イスラエルで最も裕福な億万長者ミリアム・アデルソン氏はトランプ氏の選挙運動に資金を提供し、イスラエルによるヨルダン川西岸の法的併合を承認するという見返りに、なんと1億ドルを寄付した。

マイク・ウォルツ氏が新国家安全保障顧問に就任するが、同氏は親イスラエルのロビー団体から数十万ドルを受け取っており、イスラエルの熱心な支持者である。

国防長官はピート・ヘグゼス氏になる。彼はまた、聖書がイスラエルにパレスチナの土地の権利を与えていると主張しているキリスト教シオニストでもある。

ヘグゼスは元海兵隊員で、フォックスニュースの番組の司会者であり、イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相に迎合的なインタビューを行い、ガザでの停戦の考えに対する簡単な質問と非難のコメントでいっぱいだった。

国務長官に指名されているのはマルコ・ルビオで、親イスラエルの寄付者から100万ドル以上を受け取っており、イスラエルの完全な支持者であり、考えられるほぼすべての政権転覆戦争を支持している。

ドナルド・トランプがCIA長官に選んだのはジョン・ラトクリフで、ジョー・バイデンは親イスラエルではなくハマスに対してより強硬でないと非難した人物であ

り、イランとの戦争に賛成しており、外交政策のタカ派と見なされている。

これらは、パレスチナとイスラエルの紛争に影響を及ぼす西アジア政策に潜在的影響を与えるという点では、トランプ政権を構成する最も重要な役職である。

選出されたすべての人物はキリスト教シオニストかユダヤ教シオニストで、全員がこの問題に対する立場において強硬派であり、そのほとんどが親イスラエルのロビー団体から多額の資金援助を受けている。

この内閣は、共和党党首の2期目に予想される政策の種類を示唆しており、これまでの米国史上最も過激な親イスラエル内閣のように見える。

これがガザとレバノンの人々に対するイスラエルの戦争に対する米国の支援の軌道に正確にどのような影響を与えるかは現時点では不明だが、ホワイトハウスが長年イスラエルに対して示してきた「無条件の支援」に変化はないと思われる。

(パレスチナ・クロニクル)

- ロバート・インラケシュはジャーナリスト、作家、ドキュメンタリー映画製作者。彼は中東、特にパレスチナに焦点を当てています。彼はこの芸術に貢献しましたパレスチナ・クロニクルの記事。



エレクトロニック・インティファダ 2024年11月7日

アサ・ウィンスタンリー

イスラエル軍は崩壊寸前なのか？これは、最近ガザから帰還した兵士の家族の多くが抱えている疑問だ。

先月テルアビブのニュースサイト「ザ・ホットテスト・プレイス」が掲載した記事で、20人以上の戦闘兵士とその家族に行われた一連のインタビューは、イスラエル

軍が致命的な危機に陥っている可能性を示唆している。

「これは静かで隠された現象かもしれない」とジャーナリストのリヴィタル・ホーベルは書いている。「しかし、それは継続的に増加している現象だ。多くの兵士がガザでの戦闘継続を拒否し、逃げ足で投票しているのだ。」

ガザ地区におけるイスラエルの大量虐殺に対する1年間の武装抵抗は、犠牲を強いている。多くのイスラエル兵が今や戦闘を拒否している。

戦場に戻る代わりに自殺する者もいる。

「小隊は空っぽだ」と、ある兵士の母親である「ロナ」は言う。「死んでいない、負傷していない者は、精神的に傷ついている。戦闘に戻った者はほとんどいなかった」。

「ザ・ホットテスト・プレイス」が引用した他の全員と同様に、「ロナ」はイスラエル軍の報復を恐れて偽名を使った。

イスラエル占領軍が過去1年間ガザとレバノンに与えてきた前例のない恐怖にもかかわらず、生き残った兵士の多くは経験によって精神的に傷ついている。

燃え尽き症候群

「戦闘から隠れて脱落する者が絶えずいる」と、2人目の母親である「イディット」は言う。「これは良心的兵役拒否ではなく、燃え尽き症候群による脱落だ」。

「ロナ」によると、イスラエルが10月1日に始まった地上侵攻の試みに先立ちレバノンで一連の暗殺を実行する前から、軍の士気はすでに壊滅的に低かった。

彼女の息子は彼女に、「彼らがどの軍隊でレバノンに行く予定なのかは知らないが、軍隊はない。大隊に戻るつもりはない」と語った。

これは、1か月経った現在、イスラエル軍が南レバノンに十分な距離を進軍できず、その試みで100人近くの兵士が殺された理由を説明するのに役立つかもしれない。

エレクトロニック・インティファダの寄稿編集者で軍事アナリストのジョン・エルマーによると、イスラエルは侵攻開始以来、レバノン戦線だけで兵士70人を殺害したことを認めている。

イスラエル軍を阻止しているレバノンの抵抗組織ヒズボラは、90人を殺害したと述べている。

しかし、イスラエル軍のこの明らかな崩壊は、最近の現象ではなく、レバノンに限ったことでもない。

「拒否と反乱」

「多くの親が、戦闘員の士気の崩壊は、IDF（イスラエル軍）がガザで足止めされた4月にはじまったと話している」と、ホベル氏はThe Hottest Placeに書いている。

「私はこれを拒否と反乱と呼んでいます」と、3人目の兵士の母親である「インバル」氏は言う。「彼らは、自分たちが掃討した（ガザの）同じ建物に戻ってきて、毎回また罠にかけられるのです。彼らはすでに3回、ザイトゥーン地区（ガザ市）にいました。彼らはそれが無意味で役に立たないことを理解し、そうしています。」

4人目の母親である「ヤエル」さんは、「息子と話したら、息子はこう言いました。『私たちは射撃場のアヒルみたいで、ここで何をしているのか分からない。同じ場所に

戻ってくるのは2度目、3度目だ。人質は戻ってこないし、終わりが見えない。途中で兵士が負傷したり殺されたりしている。無駄なことのようなのだ。それは3月のことでした」。

別の兵士「ウリ」さんは、「ザ・ホットテスト・プレイス」に対し、ガザ南部のハン・ユニスで占拠していた家に対戦車ミサイルが命中し、彼の部隊の将校3人が死亡したと直接語った。

「将校全員が建物の2階に行き、一緒にいて、お互いに寄り添って窓の外を見ていました」とウリさんは語った。「ミサイルが別の窓から建物に入り、彼らに命中しました。部隊全体が彼らを避難させなければなりませんでした…私たちはもう終わりでした。みんな帰省しなかったのですが、結局彼らは私たちをそこ（ガザ）に残すことに決めました」。

この「転機」となる経験が、最終的に7月に戦闘に戻ることを拒否するきっかけとなった。「芝生の上で泣き出し、もう耐えられないと言いました。もう感情的にもう限界でした。司令官にもう耐えられないと言いました。」

自殺

テルアビブの出版物に掲載されたこの記事は、ここ数週間イスラエルと西側メディアで相次いで掲載された同様の記事の1つである。その目的は、現在ガザでホロコーストを行っている大量虐殺的なイスラエル兵への同情を引き出すことであることが多い。

しかし、これらの記事の中には、おそらく著者の意図以上に多くのことを明かしているものがある。

おそらく最も悪名高い記事は、軍のブルドーザーを運転していたイスラエル兵、エリラン・ミズラヒの話を伝えたCNNである。ミズラヒは今年6月に自殺したが、伝えられるところによると、ガザに戻るよう召集されてからわずか2日後のことだった。

ガイ・ザケン（CNNに語ったミズラヒの副操縦士によると）、彼と仲間の兵士たちは「何百人ものテロリストを、生死を問わず轢いた」という。

彼はブルドーザーの下から「あらゆるものが噴出する」様子を生々しく説明した。

イスラエル人はパレスチナ人を表すのに「テロリスト」という言葉をよく使う。

ミズラヒとザケンは今年初め、イスラエルのテレビ局で「テロリスト」5,000人の家を破壊したと誇らしげに自慢し、その後、ガザにある家はすべて「テロリスト」のものだと主張した。

ミズラヒが自身のソーシャルメディアに犯罪の証拠

を投稿する動画やその他の投稿がすぐにネット上に現れた。

CNNによると、「ザケン、ガザでブルドーザーから目撃した恐ろしい光景を思い出させるため、肉を食べることができなくなり、爆発音が頭の中で鳴り響き、夜眠れなくなると言っている。」ミズラヒはガザ地区でのイスラエルの大量虐殺を熱心に実行したにもかかわらず、当初イスラエルは軍墓地への埋葬を拒否した。これは、彼が死亡した時点では厳密には現役兵士ではなかったためと思われる(ハアレツ紙は後に、彼の親族が抗議を表明したことでこの決定が覆されたと報じた)。

イスラエル兵士の間で自殺が現在、隠された流行病になっている可能性がある。

CNNによると、何千人もの兵士が「戦争中のトラウマによるPTSDや精神疾患に苦しんでいる。イスラエル軍は公式の数字を発表していないため、何人が自殺したかは不明だ」という。

イスラエルの報道機関が最近取り上げたもう一つの注目されたケースは、先月自殺した38歳のベテラン空軍パイロット、アサフ・ダガンだ。

彼の遺書はオンラインで出回っており、家族が当局に圧力をかけ、軍の埋葬に同意させようとしたようだが、これも拒否されている。

ハアレツ紙は、ダガン氏が長年心的外傷後ストレス障害を患っていると診断されていたと報じた。

「ダガン氏の家族は、彼の苦しみの原因が2006年の第二次レバノン戦争で目撃したトラウマ的な出来事なのか、彼が参加した爆撃に対する罪悪感なのかを判断できない」と同紙は報じた。

先月、イスラエルの情報機関は、イランのスパイ組織とされる2つの組織を壊滅させたと発表した。そのうち1つは完全にイスラエル系ユダヤ人で構成されていた。

ハアレツ紙の情報担当記者ヨシ・メルマン氏は、イスラエル系ユダヤ人の一部が今やイランのためにイスラエルに反抗して働く意思があるという考え自体を、「イスラエルの社会的結束の道徳的退廃と崩壊」の兆候だと表現した。

メルマン氏はテルアビブ紙に、「シンベト(情報機関)と警察は、イランのスパイ容疑で14人のイスラエル人を逮捕した。逮捕は戦時中に行われたため、容疑は非常に重い」と伝えた。容疑者は、イラン情報省のエージェントによって採用され、管理されている2つの別々の組織を代表する」

スパイ容疑者の動機は主に金銭であると主張しているにもかかわらず、メルマン氏は「無視できない痛ましい

真実は、ますます多くのイスラエル系ユダヤ人がイランのためにスパイする用意ができていているということだ」と書いている。

同氏は「過去6か月間に20人以上のイスラエル人がシンベトに逮捕され、イラン情報省のためにスパイ活動を行ったとして告発された」と主張した。

この20人のスパイ容疑者は「さまざまな職業のイスラエル人だ」とメルマン氏は主張した。

「男性も女性も、若者も老人も、国中から来た。彼らはイスラエル社会のモザイクを代表している。ベイト・シエメシュのイエシーバーの学生、ラマト・ガンの大学の心理学の学生、アシュケロンビジネスマン、ベラルーシとウクライナからの2人の新移民だ」メルマン氏は、自分の見解を次のように説明した。「多くのイスラエル人は、ベンヤミン・ネタニヤフの好戦的な政策が終わる心配がないため落ち込んでいる。経済は悪化し、政府は国民に希望を与えていない。こうした状況はすべて、スパイを養成する土壌となっている。」

また、イスラエル軍の崩壊、あるいは少なくとも深刻な衰退の土壌にもなっているようだ。抵抗勢力が繰り広げる消耗戦に終わりは見えず、イスラエル軍の課題は増え続けるばかりだ。

崩壊はまだ遠いかもしれないが、パレスチナ人とレバノン人にとっては、早く来てほしいものだ。

デナ・シュンラによる翻訳、モーリーン・クレア・マーフィーによる追加調査。

アサ・ウィンスタンリーは、エレクトロニック・インティファダの調査ジャーナリスト兼副編集長。彼は『反ユダヤ主義を武器にする：イスラエル・ロビーはいかにしてジェレミー・コービンを倒したか』(OR Books, 2023年)

アハリー病院に支援を

アハリー・アラフ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラフ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525

ハアレツ：ネタニヤフ首相はガザ北部 で民族浄化を行っている

ガザ北部のペイト・ラヒアで恐ろしい虐殺が行われた。(ファイル写真：ビデオグラフ)

2024年11月10日 ニュース

パレスチナ・クロニクルスタッフ

イスラエルの新聞ハアレツは日曜日、ベンヤミン・ネタニヤフ首相とイスラエル軍がガザ北部地域で「民族浄化作戦」を画策していると非難する社説を掲載した。

社説は、この地域でイスラエル軍に同行した同紙の軍事特派員ヤニフ・クボビッチ氏の観察を引用した。

「この地域は自然災害に見舞われたようだ」とクボビッチ氏は語ったと伝えられている。社説は「しかしクボビッチ氏が見たのは自然災害ではなく、計画的な人間による破壊行為だった」と付け加えた。

イギリスの新聞「ガーディアン」が第162師団の指揮官と報じたイツイク・コーエン准将はインタビューで、「私の任務は浄化された空間を作ることだ…我々は住民を保護するために移動させ、部隊の行動の自由を確保している」と述べた。

「ガザ地区北部の住民が自宅に戻ることを許可するつもりはない」とコーエン氏は語ったと伝えられている。

報道によると、「軍は、ガザ地区北部からパレスチナ人を追放するために、ギオラ・アイランド少将（退役）と彼の同僚である退役指揮官数名が考案した『將軍の計画』を実行しているかどうか、同将校に尋ねられた」。

コーエン氏は、そのような指示は知らないと否定したが、代わりに軍は「(イスラエル軍の) 南部司令部と参謀長の指示に従って行動している」と述べた。

社説は、「アイランドはこれらの考えを国民に売り込んだかもしれない」が、ガザ北部での民族浄化は「イスラエル国防軍の指揮官の指示の下で実行されている。彼らは政治指導者であるベンヤミン・ネタニヤフ首相の指示に従っている」と指摘した。

したがって、社説によると、「將軍の計画について話す代わりに、『ネタニヤフの命令』について話すべきだ」。

「彼は指導者であり、イスラエル国防軍が北部ガザ地区で犯した戦争犯罪、すなわちパレスチナ人の追放、彼

らの家の破壊、そして長期にわたる占領とユダヤ人入植地の準備に責任がある」と社説は結論付けた。

進行中の大量虐殺

イスラエルは、即時停戦を求める国連安全保障理事会の決議を無視し、ガザに対する残忍な攻撃を継続する中で国際社会の非難に直面している。

現在、国際司法裁判所でパレスチナ人に対する大量虐殺の罪で裁判を受けているイスラエルは、10月7日以来ガザに対して壊滅的な戦争を続けている。

ガザ保健省によると、2023年10月7日から始まったイスラエルによるガザでの大量虐殺により、43,552人のパレスチナ人が殺害され、102,765人が負傷した。

さらに、少なくとも11,000人が行方不明で、ガザ地区全域の自宅の瓦礫の下で死亡したとみられている。

イスラエルは、10月7日のアルアクサ洪水作戦で1,200人の兵士と民間人が死亡したと発表している。イスラエルのメディアは、その日多くのイスラエル人が「友軍の誤射」によって死亡したと示唆する報道を発表した。

パレスチナおよび国際組織は、死傷者の大半は女性と子供であると述べている。

イスラエルの戦争は、主にガザ北部で深刻な飢餓を引き起こし、多くのパレスチナ人、主に子供が死亡した。

イスラエルの侵略はまた、ガザ地区全域から200万人近くの人々の強制的な避難をもたらし、避難民の大半はエジプトとの国境に近い人口密集の南部都市ラファに強制的に移住させられた。これは、1948年のナクバ以来パレスチナで最大の大量脱出となった。

戦争の後半には、何十万人ものパレスチナ人が安全を求めて南部から中央ガザへと移動し始めた。

(パレスチナクロニクル)



タマラ・ナサール 権利と説明責任

2024年11月5日

イスラエル軍とユダヤ人入植者により、占領下のヨルダン川西岸のパレスチナ人農家にとって「これまでで最も危険なオリーブ収穫シーズン」となっている。

この警告は、ヨルダン川西岸とガザ地区に関する国連特別報告者のフランチェスカ・アルパネーゼ氏を含む12名の国連人権専門家から出された。

10月中、東エルサレムを含む占領下のヨルダン川西岸の110のコミュニティで、入植者によるパレスチナ人とその財産への攻撃が少なくとも270件、国連監視団体OCHAによって記録された。

武装した入植者とイスラエル軍は、農民を攻撃し、嫌がらせをし、農民が土地にアクセスするのを妨害し、時には負傷させたり殺害したりする。

イスラエル人は10月中に、主にオリーブの木1,000本以上を焼き、切り倒し、破壊した。また、パレスチナ人から作物や収穫用具を盗んだ。

入植者は、ヨルダン渓谷のアイン・アル・バイダ村で、パレスチナ人が所有する土地を耕し、そこに木を植えた。

イスラエルは、パレスチナ人が土地に入るのを物理的な障壁で阻止し、土地にいる時間を制限し、土地へのアクセスを許可される農民の年齢と人数に恣意的な制限を課している。

例えば、OCHAによると、イスラエル占領当局は、イスラエルの入植地メボ・ドタン付近の土地へのアクセスを「40歳以上の農民約50人」に制限している。

これにより、ジェニン県の複数の家族が所有する約5,000エーカーの土地へのアクセスが著しく妨げられている。

パレスチナ人農民は、イスラエル当局から「事前調整」の許可を得た場合にのみ、特定の地域の自分の土地にアクセスすることができる。

国連の専門家は、イスラエル当局が許可を取り消したり、許可証を発行しなかったりするケースが増えているため、農民への攻撃は「悪化する」と予想される」と述べた。

イスラエル当局は、イスラエル入植地の境界から200

メートル以内のオリーブ畑へのアクセス制限を部分的に解除した。

しかし、これはオリーブを収穫するパレスチナ人の安全を保証するものではない。

10月17日、59歳のパレスチナ人女性が、占領地ヨルダン川西岸北部のジェニン近郊のフカー村でアパルトヘイトの壁から約200メートル離れた場所でオリーブを収穫中に、イスラエル軍の銃撃で射殺された。

しかし、その地域ではイスラエル軍の許可証は不要だった。

「軍服を着た男がやって来て、彼女に向かって約10発の銃弾を発射した」とテルアビブの日報紙ハアレツは報じた。

パレスチナ自治政府保健省は、彼女の身元をハンナ・アブド・アル・ラーマン・アブ・サラマと特定した。

「治安筋によると、最初の調査によると、アブ・サラマは、オリーブの収穫についてイスラエル当局と調整する必要のない地域で撃たれたが、障壁に近づく前に通知するよう警告されている」とハアレツは報じた。

村議会のメンバーは同紙に対し、パレスチナ自治政府連絡事務所に議会に、イスラエル占領当局と調整すればオリーブの収穫が許可されると伝えたと言った。議会メンバーのムニール・バラカット氏は、住民はその後、アブ・サラマがしていたように、アパルトヘイトの壁の近くのオリーブ畑にアクセスできると知らされたと言った。

攻撃は倍増

入植者による攻撃は毎年オリーブの収穫期に定期的に発生しており、パレスチナ人の命と生活にとって深刻な脅威となっている。

しかし、イスラエルがガザでパレスチナ人を大量虐殺して以来、ユダヤ人過激派は大胆になり、パレスチナ人に対する時には致命的な攻撃をエスカレートさせているが、イスラエル軍は完全に罰せず、いつものように彼らを保護している。

2023年10月7日以降、14,000本以上の木(主にオリーブ)が根こそぎにされたり、破壊されたり、損傷を受けたりと、アラブ48紙はパレスチナ人が記録した数字を引

用して報じた。

今年これまでに記録されているオリーブ収穫に関連したパレスチナ人に対する入植者による攻撃は、昨年の収穫時に記録された60件の入植者による攻撃の少なくとも2倍である。国連監視団体OCHAは、2022年には59件、2021年には36件の事件があったと述べた。

昨年のシーズン中、イスラエル占領軍はパレスチナ人が土地にアクセスする許可をほぼすべて取り消した。

パレスチナ人は、ユダヤ人専用入植地の境界内や入植者が利用する道路沿いにある私有地にアクセスできなかった。

国連OCHAによると、今年もパレスチナ農民は「完全に立ち入り禁止」のみである。

その結果、パレスチナ人は23,700エーカー（96万平方キロ）以上のオリーブ栽培地を収穫できず、推定1,000万ドル（15億4444万円）相当のオリーブオイル1,200トンを失った。

2023年10月にイスラエルによるガザでの大量虐殺が始まったとき、占領下のヨルダン川西岸のパレスチナ人

は、イスラエル軍とユダヤ人入植者による史上最高レベルの暴力と移動制限に直面した。

重要性

秋のオリーブの収穫はパレスチナ経済にとって不可欠であり、オリーブとオリーブオイルはパレスチナ人の食生活と文化に深く根ざしています。

10年前、国連の統計によると、オリーブオイル産業は占領下のヨルダン川西岸地区とガザ地区の農業収入の25%を占めていました。

通常、秋の初めに最初の雨が降った後に収穫が始まり、10月から11月まで続きます。あらゆる年齢のパレスチナ人が畑に集まり、民謡を歌い、収穫物を選別します。

このビデオは、占領下のヨルダン川西岸北東部のトゥルカレムにあるカフルアルラバド村で、パレスチナ男性がオリーブの実からオイルを抽出している様子を示しています。

国連の専門家は、何世紀にもわたる伝統の祭典に対するイスラエルの攻撃は、パレスチナ人の自決権に対するさらなる攻撃であると付け加えました。



2024年10月31日 記事、論説、社説

イスラエルの成功と失敗は、最終的にこの格言によって決まるだろう。パレスチナ人が反撃する限り、ワイスと彼女の仲間の過激派はガザで安全を見つけることはできないだろう。

「ガザは永遠に我々のものだ」というスローガンの下、多数のイスラエル過激派と右派政治家が10月20日～21日、ガザ国境地域近くのベエリ入植地に集まった。

このグループは、イスラエルの右派、極右、超国家主義者の名士たちを代表していた。参加者には、イスラエルのイタマル・ベン・グヴィル、メイ・ゴラン、ベザレル・スモトリッチ各大臣のほか、イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相率いるリクード党の国会議員10名が含まれていた。

「ガザ再定住の準備」と題されたこのイベントは、悪名高いダニエラ・ワイスが率いるイスラエルの最も過激な入植者運動の一つ、ナチャラが主催した。

この79歳の入植者がいかに過激であるかを理解する

には、次のことを考えてみよう。6月27日、カナダ政府はネタニヤフとその戦争の最も熱心な支持者の一人であるにもかかわらず、彼女が「イスラエルの過激派入植者によるパレスチナ民間人に対する暴力行為を助長した」として、彼女に制裁を課した。

しかし、憎しみに満ちたこの会議は、イスラエルがパレスチナ人から民族浄化を行い、違法な入植地を再建すべき理由を訴える1年にわたる努力の集大成に過ぎなかった。

しかし、この話は10月7日に始まったわけではない。2005年、イスラエルは小さな沿岸地域であるガザ地区へ軍を再配備することを決定した。これが、イスラエルによるガザ地区への徹底的な封鎖の始まりであり、これが複数の戦争、そして最終的には10月7日の事件と現在進行中の大量虐殺につながった。

解体された15の違法入植地から避難したユダヤ人入植者の数は8,500人とかなり少なかったが、入植者が感じた裏切り感はイスラエル社会全体に深い分裂をもたら

した。

ガザのグシュ・カティフ入植地から入植者が強制的に排除される混乱した光景はイスラエルに国家危機を引き起こし、イスラエルがエジプトとの以前の合意の一環として1982年4月に解体したシナイ半島の違法入植地ヤミットの強制退去と比較された。しかし、なぜ危機が起きたのか？

イスラエルは入植者植民地社会であり、植民地拡大を宗教的命や予言と結び付けてきた。したがって、ガザからの強制退去は、入植者のほとんどにとって、国家反対と冒険行為の両方を意味するように見えたに違いない。

これが、ガザへの再定住がイスラエル入植者にとって直ちにスローガンとなった理由である。2005年の再配置の際の政治的な権力の限られた部分と比較すると、現在の過激派は事実上、意思決定者となっている。

軍はガザでの戦略目標について不明確なままだが、入植者たちは自分たちの使命の本質、すなわちガザからすべてのパレスチナ人を民族浄化し、入植地を再建することを常に認識していた。

そのため、ワイス氏のような人々や彼女の支持者の多くは、すぐにイスラエル人に再植民地化キャンペーンに参加するよう呼びかけ始めた。「登録してください。登録してください。ガザに行くこととなります」とワイス氏は昨年3月、支持者の前で語り、CNNの報道によると、すでに500世帯が登録したと喜びを語った。

ワイス氏とナチャラ運動は、国の主要政治家の全体的な目標から独立して行動しているわけではない。例えば、戦争初日の2023年10月7日、ネタニヤフ首相は意図を明確にした。「ガザの住民に言う。今すぐ立ち去れ。我々はあらゆる場所で強制的に行動する」。

10月17日、イスラエルのミスガブ国家安全保障・シオニスト戦略研究所が提出した立場表明書は、「ガザ地区住民全員の移住と最終的な定住」を求めた。

報告書は、戦争を「ガザ地区全体をシナイ砂漠に避難させる、他に類を見ない稀有な機会」とみなした。同月後半、イスラエル諜報省自体も関与し、イスラエルの報道機関カルカリストは「ガザ地区住民のシナイへの移転を推奨する」文書を発表した。

11月14日、極右のスモトリチ大臣は「自発的移住」について語った。12月、メディア報道によると、ネタニヤフ首相自身がリクード党員に対し、イスラエルの本当の課題は「自分たちを受け入れてくれる国」、つまりガザ地区の人々を見つけることだと語っていた。

パレスチナ人の民族浄化という考えを支持する会議が

組織され始めた。最初の大規模な会議は、昨年12月に入植者運動連合によって開催された。「ビーチに家を持つのは夢ではない」と集会の宣伝文句は謳っていた。ここでの「ビーチ」はガザのビーチを指している。

ドナルド・トランプの義理の息子、ジャレッド・クシュナーもこの提案に飛びついた。チャンス。3月、彼はガザの「非常に価値のある…水辺の財産」について語り、イスラエルは民間人を立ち退かせて「ガザ地区を浄化」する必要があった。

ガザ北部の根絶と民族浄化を目的とした進行中のいわゆる将軍の計画は、入植者のビジョンである「ガザは永遠に我々のものだ」の軍事的要素にすぎない。

しかし、イスラエルが過去にもっと管理しやすい状況下で反抗的なガザ地区の入植地を維持できなかったのであれば、今回成功するだろうか？

入植者たちは目の前の課題をすでに認識している。だからこそ、彼らはガザの植民地化をガザ地区のパレスチナ住民の民族浄化と常に結び付けているのだ。

しかし、イスラエルの成功と失敗は、最終的にはこの格言によって決まるだろう。パレスチナ人が反撃する限り、ワイスと彼女の仲間の過激派はガザで安全を見つめることはできないだろう。

実際、ガザの先住民は何千年の間、その歴史的な土地で暮らしてきた。虐殺が彼らを土地から追い出さなかったなら、他に何もできないだろう。

- ラムジー・バルードはジャーナリストであり、パレスチナ・クロニクルの編集者である。

BANC 寄付するには

BAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur, Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociación Para La Cooperación Y Desarrollo De Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡ください。



UAWC (農業労働委員会連合) の「ガザの飢餓を止めろ」キャンペーンの最新レポート 7月から10月

一年がたった。そして、イスラエルはガザでも虐殺戦争を続けている。それは、破壊と苦難をもたらしている。最近の見積もりでは、約190万のガザの人々が、ガザの中で避難させられている。燃料の危機的な不足は深刻で、生命救済の健康サービスと必須の水の供給、衛生システムの操業の妨げになっている。ガザの居住者は、清潔な水への不十分なアクセス、不適当なシェルター、限られた食糧援助という厳しい課題に直面している。しかも、すべては、終わりのない継続的な空海陸からの爆撃の中でである。最新の調査が2024年10月で明らかにしているのは、イスラエルの占領が、4万3061人のパレスチナ人の死と101223人のガザでの負傷者に結果していることである。

この悪化する人道状況に対して、UAWCは、2024年の7月にレポートしたように、意義ある活動を築き上げてきた。それは、ガザ全体でのその人道的イニシアチブを強化、拡大することであった。継続的で容赦のないイスラエルの侵略、封鎖。基本的な資源の厳しい不足にもかかわらず、「ガザの飢餓を止めろ」キャンペーンは、困難な状況にある家族への重要な援助を行うことへの不屈さを維持してきた。UAWCは避難民を助け、緊急な必要をみたすなど生活を維持することを目的とする様々な活動を開始してきた。

2024年10月までの主要な達成したこと

2024年10月、UAWCのキャンペーンは、いくつかの領域で本質的な進歩を達成した。

食品小包の配布：4117包み 主要には新鮮な野菜のパックで 24100人の避難民に影響を受けた諸個人の利益のために配布された。

水の配布：3900立方メートルの飲料可能な水を配布した。おおよそ78万避難民、または影響を受けている個人に配布

家畜所有者へ獣医キット：2,387キット：羊飼いたちは、家畜の健康を維持するためにキットを受け取った。それは、中央、南部ガザの羊飼いの生活を維持するための基本となるものです。

飼料配布：610トンの大麦、農業投入の不足の中で、家畜を維持するために必要な飼料を提供。ガザ全体の4136の羊飼いに配布された。

生産部門の開発：14の小中の南部、中部ガザの生産部門。それは60人の個人に利益を与えている。この間には8部門の地元食料生産と経済の回復力を引き上げるこ

とを目的としたものが含まれている。

衛生施設：10台の移動衛生施設、南部、中部ガザの避難キャンプに設置。10,000人の避難民に利益を与えた。それぞれの施設は、4つのトイレが装備されたものになっている。それらは、衛生環境を改善し、病気の蔓延を防いでいる。

キャンペーンの開始以来の主要な達成事項

食料小包：52819個 即座の栄養の必要性にみあう、基本食料品と野菜を含んでいる

飲料水：14,400立方メートルの水の提供に成功
 ラマダンの期間の温かい食事：20,000の温かい食事がラマダンの期間中配布された。イフタルの時に心地よさと食料を提供した。

衛生キット：13,000キット。特に重要な健康を保つために必要な衛生用品

子供服：8,000着、厳しい環境の中で子供のための温かさの確保のため。

薪：25トン、ガスの欠乏の中で、暖房用と調理用に。

女性のための衛生バッグ：424バッグ、女性のために不可欠な衛生用品

テント：25テント、続く熱波の中で避難家族のシェルターとして提供。

マットレスと毛布：5000枚、睡眠条件の改善と温かさの提供。

7045羊飼いの受益者

2024年10月の時点で合計84万7340の受益者

様々なサービス

UAWCは、ガザの人々に26657の様々なサービスを提供している。これは、5大学と提携した教育サービス、ガザの商工会議所を通じた取引サービス、2つの人権機関と協同した法律サービス、農業サービス、障害のある人々への特別な支援を含むものである。

行動の呼びかけ

ガザの状況は、厳しいままであり、UAWCは、引き続き困難にもかかわらず、援助のための努力を続けていく決意である。私たちは、すべての支援者とパートナーに「ガザの飢餓をとめよう」キャンペーンへの貢献することを呼びかけます。それは、緊急に必要なとされるものをより多くの家族が受け取れることを確実にするためです。あなた方の寄付と支援は、数千のかれらの生活を再建し、困難を緩和するために不可欠です。

農業労働委員会連合 (UAWC)

メール info@uawc.net

電話：009708287959

パレスチナ日誌

2024年10月

10月1日

- ・米国はイスラエル防衛のため、中東に数千人の兵士を派遣すると発表した。
- ・レバノンの保健省 月曜日、イスラエル軍の空襲により95人が殉教、172人が負傷
- ・イスラエル軍、レバノン南部での地上作戦開始を発表
- ・アイン・アル・ヒルウェでのムニール・アル・マクダ暗殺未遂の失敗
- ・レバノンでの限定的な作戦を米国が支持、長期化の懸念も

10月2日

- ・イランがイスラエルを爆撃
- ・レバノン：10月8日以来1873人の殉教者
- ・イスラエルが宣言：グテーレスはベルソナ・ノン・グラータであり、イスラエルへの入国を禁止する
- ・ヘブライの新年に約5万6千人の入植者がアル・アクサを襲撃
- ・バイデン氏：イラン核施設への攻撃は支持しないが、制裁は科すだろう

10月3日

- ・イスラエル軍認める：100発以上のロケット弾がレバノンから飛来
- ・軍とシン・ベツ、シンワルの「右腕」暗殺を確認

10月4日

- ・イスラエル軍 ガザ地区から2発のロケット弾が「包囲網」に向けて発射された。

10月5日

- ・レバノンのアル・バダウィ・キャンプ近くのアパートが標的となり、4人が殉教した。
- ・サルフィット県、9月中に327件のイスラエル軍侵犯を記録

10月6日

- ・イスラエル軍の空襲、ベイルート南郊を標的に
- ・ヒズボラ、ハイファ南方の基地(7200)の爆発物工場を標的に

10月7日

- ・占領警察、エルサレムでヨルダン川西岸地区の若者20人近くを逮捕
- ・ハイファにロケット弾落下...レバノンから20発発射
- ・戦後1年：数十人の殉教者と占領軍が再びジャバリアに侵攻
- ・アル・カッサム 我々はM-90 ロケットの弾幕でテルアビブを爆撃した
- ・開戦以来728人のイスラエル兵が死亡
- ・レバノンの保健省：イスラエルの侵略開始以来、2083人が殉教、9869人が負傷
- ・ネタニヤフ首相、ガザ虐殺戦争の名称を「鉄の剣」から「黙示録戦争」に変更

10月8日

- ・夜明けからガザで77人が殉教
- ・368日間の戦争：数十人の殉教者とアル・ブレイジとジャバリアへの激しい襲撃

・占領軍、ヒズボラ指導者暗殺を発表

・ハマスとファタハがカイロで会談

・占領軍は10月7日以来、ガザから1,500体以上の遺体を収容している。

・レバノンからハイファとキリヤットに向けて100発のロケット弾が発射された。

・ダマスカス中心部のマゼ地区を空爆

・占領軍はカマル・アドワソ病院の24時間以内の立ち退きを要求

10月9日

- ・占領軍、ガザ地区北部の3病院の立ち退きを要求
- ・イスラエル 囚人交換を要求するデモ隊がネタニヤフ首相官邸への道を封鎖
- ・イスラエル 攻撃の目的はガザ地区北部の広範囲を制圧すること

10月10日

- ・占領軍はジャバリアキャンプで虐殺を行い、銃撃で包囲した。
- ・占領軍がシリアを爆撃
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民22人を逮捕
- ・ガザで1日に55人の殉教者と166人の負傷者
- ・イスラエルがエルサレムのUNRWA本部を接収し、入植地建設に充てる
- ・イスラエル軍 レバノンからナハリヤとアクレに向けてロケット弾50発発射

10月11日

- ・占領軍、カルキリヤの東で農民を攻撃しオリーブ作物を破壊
- ・イスラエル ユニフィル部隊は、レバノン南部の陣地から部隊を退避させるというイスラエルの要請を拒否した。
- ・イスラエル軍によるレバノン南部への砲撃でUNIFIL兵士2人が負傷

・ガザの保健省：イスラエル軍の攻撃により、24時間で61人が殉教、231人が負傷した。

・レバノンからシリアへ42万人以上が出国

・Yedioth Ahronoth：レバノンから80発のロケット弾が発射される

・パレスチナ赤新月社 ガザ北部ですべての救急車が停止

10月12日

- ・ガザ地区北部のジャバリアの町に対する占領軍の爆撃で25人が殉教した。
- ・2機のドローンがテルアビブに潜入し、ヘルツリーヤのビルが直撃された
- ・レバノン：イスラエルの空襲で24時間以内に60人の殉教者
- ・ガザから発射されたロケット弾2発がアシュケロンに落下
- ・占領軍によるアル・マガジ収容所とジャバリア収容所への爆撃で8人の殉教者

10月13日

- ・ヒズボラ、ヨム・キプールにイスラエルに320発の弾丸を発射
- ・米軍がイスラエルに「THAAD」ミサイル・システムを配備するというニュース
- ・イスラエル人拘留者の家族がテルアビブ中心部を閉鎖、警察は5人を逮捕
- ・ガザ地区でポリオ予防接種キャンペーン第2ラウンド開始
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民30人を逮捕
- ・ガザの保健省：一日で52人の殉教者、開戦以来42,227人

10月14日

- ・ハイファ南部のドローン爆発で死傷者
- ・ハーレツ レバノン南部の2つの事件で兵士25人が負傷
- ・ハイファへのロケット弾...ヒズボラ、リハビリ・メンテナンスセンターを標的に
- ・占領軍、ベツレヘムの市民25人を逮捕
- ・イスラエル軍、レバノンのアルアインで援助隊を標的に
- ・赤新月社がポリオ予防接種キャンペーンを開始、ビタミンAで免疫力を高める

10月15日

- ・テルアビブやその他の都市への激しいロケット弾攻撃
- ・戦後 - 11,400人の学生が殉教し、500の学校と大学が爆撃された。
- ・ガザで1日に55人の殉教者
- ・占領軍ラジオ：レバノンからイスラエルに向けて発射されたロケット弾20発を探知

・ヒズボラ イスラエルは国際的に禁止されているクラスター爆弾をレバノンに投下した

10月16日

- ・占領軍は今夜レバノンから50発のロケット弾の発射を監視、イスラエル人2人が負傷
- ・BDS運動、イスラエルへの爆発物積載船の阻止に成功
- ・イスラエルのレバノン南部空襲でナバティエ市長が殉教
- ・ガザ：1日で65人、開戦以来42,409人の殉教者
- ・占領軍機がガザ地区中南部への空襲を再開、ジャバリアへの爆撃も続く

10月17日

- ・アル・クッズ旅団 我々はガザ包囲居住区をロケット弾で爆撃した
- ・エジプトとサウジアラビア、ガザとレバノンの即時かつ恒久的な停戦を呼びかけ
- ・イスラエル軍戦車がUNIFIL監視塔に発砲
- ・シリア イスラエルによるラタキア市への攻撃で2人が負傷
- ・イラン外相、10年以上ぶりにカイロを訪問
- ・安全保障理事会で ガザの壊滅的状況に対するアラブと国際社会の非難
- ・イスラエル、7つの医療団体のガザ入国を禁止
- ・ガザで1日に29人の殉教者、開戦以来42,438人
- ・ガザで181,000人以上の子どもたちがポリオ予防接種を受ける
- ・イスラエル、UAEの仲介でソマリア北部に軍事基地設置を検討

10月18日

- ・ヒズボラの待ち伏せで兵士5人死亡、9人負傷
- ・占領軍がガザ市のいくつかの地域を標的にした後、殉教者と負傷者(そのほとんどが子ども)。
- ・ヒズボラ、イスラエル軍20カ所を標的にすると発表
- ・イスラエル軍、レバノン南部の23の村の住民に南へ移動しないよう警告
- ・イスラエル、検死後にシンワル氏の遺体を秘密の場所に移送
- ・ユニフィル：我々は5回、意図的に標的にされた。
- ・ナブルス南東のジュリシュで羊の群れを盗み入植者たち。
- ・カフル・アディクで入植者がオリーブ摘み取り農民を襲撃、機材を破壊
- ・イスラエル軍 シンワーは最期に2つの手榴弾を攻撃部隊に投げつけた。
- ・ジャバリア・キャンプとガザ地区北部への激しい砲撃
- ・ファタハ、ハマス政治局長の殉教者ヤヤ・シンワールを追悼

・パレスチナ解放機構執行委員会、偉大なる民族指導者ヤヒヤ・シンワールを悼む

10月19日

- ・ヒズボラが無人機でハイファを攻撃、レバノン戦闘でイスラエル兵が死傷
- ・レジスタンスはジャバリアキャンプで戦車と歩兵部隊の排除に成功し、死傷者を確認した。
- ・レバノンから来たドローンがカイザリアのネタニヤフ首相の家を直撃
- ・インドネシアの病院が包囲され発電機が破壊され、患者2人が死亡
- ・ガザ北部の避難民を保護する学校で、占領軍が2度目の標的とした後、火災が発生した。
- ・ハマス代表団がトルコ外相と会談

10月20日

- ・占領軍のレバノン侵攻による犠牲者は、殉教者2,448人、負傷者11,471人に上る。
- ・新たな虐殺 占領軍がベイトラヒアの住宅地を爆撃した結果、70人以上の殉教者が出た。
- ・165人の子どもを含む：2023年10月7日以来、ヨルダン川西岸で759人が殉教者
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民30人を逮捕
- ・ガザで1日に84人の殉教者
- ・この1年間で、エルサレムでは4万人以上が取り壊しの影響を受けた。

10月21日

- ・イスラエル、南部郊外への激しい空襲を開始... ヒズボラの銀行が標的のひとつに
- ・報告 米特使がベイルートに到着、決議1701とその修正案の実施について協議
- ・国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA)：イスラエルは、ガザ北部の瓦礫の下に閉じ込められた人々の緊急避難要請を拒否した。

10月22日

- ・ハマスが世界各地で「イスラエルとアメリカの大使館包囲」キャンペーンを開始
- ・テルアビブ東部にロケット落下
- ・占領軍、アルアルブ・キャンプの市民15人を逮捕
- ・7 虐殺 - ガザの保健省：48時間で115人の殉教者
- ・10月初めから50人のイスラエル人が死亡
- ・ガリラヤでロケット弾によりイスラエル人4人が負傷
- ・イスラエル、ヒズボラの無人偵察機がネタニヤフ首相の自宅を攻撃したことを公式に認める
- ・レバノンの健康：イスラエル軍によるアル＝ジャナ襲撃で18人が殉教者

10月23日

- ・ベイトラヒアの避難民を保護する学校を標的にした占領軍の爆撃により、7人の殉教者が出た。
- ・イスラエル軍、ハシム・サフィエディンの暗殺を正式発表
- ・ポリオ予防接種キャンペーン、砲撃のためガザで中断
- ・占領軍がガザ地区北部から150人の市民を逮捕
- ・24時間で74人の殉教者 ガザで新たな砲撃、UNRWAと自治体職員を標的に
- ・報告書 占領軍はジャバリアで770人以上の殉教者を殺し、1000人以上を負傷させ、数十人が行方不明になっている。

10月24日

- ・占領軍機がベイルートのアル・マヤディーン・チャンネル事務所を攻撃
- ・占領軍によるダマスカスとホムス地方への空爆で殉教者1名、負傷者7名
- ・占領軍、アル＝ファワールキャンプの市民14人を逮捕
- ・数分後、ヒズボラが50発のロケット弾を発射
- ・アル＝カッサム旅団 我々はジャバリアキャンプの軍用ブルドーザーを標的にした
- ・4 虐殺 - ガザの健康：24時間で55人の殉教者
- ・ヌセイラットでの虐殺、ブレイジとマガジへの砲撃が続く
- ・パリ会議、継続的な侵略を踏まえたレバノン支援について議論

10月25日

- ・イスラエル、10月7日以降、軍と内務省の890人の殺害を発表
- ・国連：レバノン国民の5分の1が避難、避難所は過密状態に
- ・イスラエル治安省：イスラエル治安要員890人が戦死
- ・WHO：ガザで1,000人の医療従事者が死亡
- ・米中央軍 F-16 飛行隊が中東に到着
- ・本日未明からのイスラエル軍によるガザ空襲で88人が殉教
- ・ガザの保健省 占領軍はカマル・アドワン病院の避難民と医療スタッフを拘束し、彼らの消息は不明である。

10月26日

- ・イスラエル軍、イランの軍事目標への空襲開始を発表

・イスラエル軍がイランへの攻撃終了を発表。

・イラン軍、イスラエル攻撃で兵士2人の殉教を発表

- ・占領軍は10月7日以来、ガザ地区のいくつかの墓地から約2300体の遺体をした。
- ・カッサム旅団がジャバリアでイスラエル軍が立てこもる家屋を爆破し、戦車2両を破壊した。
- ・ガザ：48時間で77人の殉教者
- ・朝から145発のロケット... ヒズボラのロケット弾が北部入植地で火災を引き起こす

10月27日

- ・ガザのイスラエル人捕虜の家族：ネタニヤフ首相は時間稼ぎをし、交渉する気がない
- ・ヒズボラが発表：我々は「ヨディファット」軍需産業の自爆ドローンで攻撃した
- ・調査中の背景 - モサド本部近くのバス停にトラックが衝突、少なくとも40人が負傷
- ・レバノン空襲で8人の殉教者
- ・ガザ地区北部、23日間の包囲で1000人の殉教者
- ・ヒズボラ ハイファ北部のゼブロン軍需産業基地を標的にした
- ・アル＝シシ ガザでの2日間の停戦と囚人の交換を提案した。

10月28日

- ・ヨルダン川西岸とガザにイスラエルの主権を押し付けるというモトリッチの提案
- ・ベリはカタールとエジプトに、ヒズボラが戦線分離と決議1701号の受け入れに合意したことを伝えた。
- ・ネタニヤフ首相、エジプトの提案「小さな取引」を拒否
- ・ヒズボラ、交渉での戦線分離を否定
- ・ガザで24時間に96人の殉教者

10月29日

- ・テルアビブ、新防空システムを導入
- ・ヒズボラ、レバノン南部でイスラエル兵90人の殺害を発表
- ・イスラエル国内でのUNRWA活動を禁止する法律がついにクネセトで承認される
- ・グテーレス：UNRWAに代わるものはない
- ・占領軍 我々はレバノンで軍事的目標を達成し、和解を促進できる
- ・ヒズボラ、ナスララの後任としてナイム・カセムを事務総長に選出
- ・死者1名、負傷者1名 - レバノンからガリラヤに向けて50発のロケット弾が発射される
- ・ベイトラヒアの虐殺... 93人の殉教者と40人の行方不明者... 応急処置も市民防衛もなし
- ・10月7日以降、12,000人の兵士が負傷
- ・ガザ：41人の殉教者を出した4つの大虐殺
- ・ナクーラでユニフィル兵8人が負傷
- ・本日未明からのイスラエルによるガザ地区空襲で121人が殉教
- ・襲撃犯の家族を強制送還する法律：クネセトの委員会が承認し、本会議に送る

10月30日

- ・スペイン、イスラエルへの武器禁輸措置を弾薬購入にも拡大
- ・アラブ系イスラエル国会議員オデ議員、パレスチナ国家承認基本法をクネセトに提案
- ・北部が燃えている：ヒズボラのロケット弾で23万ドゥナムが焼失
- ・ガザの保健省：この1日で102人が死亡
- ・クネセトはアラブ系議員の出馬を妨げる考慮事項の拡大を承認した。

10月31日

- ・政治レベルの圧力により、占領軍はジャバリアに留まり、住民の帰還を妨げている。
- ・イスラエル、ヨルダンとの国境に新たな軍事部門の設置を決定
- ・占領軍がウム・トゥバの土地64ドノムの接收を承認
- ・占領軍がヒズボラ司令官暗殺を発表
 - ・アラブ連盟、国連パレスチナ難民救済事業
 - ・ハマスが短期停戦提案を拒否
- ・ベイトラヒアで45人の殉教者... 避難要求とガザとヌセイラットへの再空襲
- ・サウジアラビア パレスチナ国家の樹立なくしてイスラエルとの国交正常化なし
- ・ヒズボラ 我々は大規模なミサイル弾幕でクラヨットを爆撃し、イスラエルは2人の死者を発表した
- ・占領軍、ガザ地区北部で多数の拘束者を釈放
- ・モトリッチ、イスラエルとパレスチナの銀行間の協力を1ヶ月延長
- ・占領軍：1300機の無人機がイスラエルに向けて発射され、ヒズボラの航空機備蓄を破壊した

パレスチナの歌



自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

殺人はもうやめて、嘘はもうやめよう

殺人はもうやめて、嘘はもうやめよう

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ

私の心の中のパレスチナ

パレスチナ、パレスチナ

私の心の中のパレスチナ

[第 1 節]

堂々と立ち上がれ

これは警鐘だ

二度とはしない

二度とはしないということは

二度とはしない

ガザの私のすべての人々へ

私たちは遠く離れて暮らしているけれど

あなたの痛みは私の痛み

みんなは 1 人のために、みんなは 1 人のために

[コーラス]

自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

殺人はもうやめて、嘘はもうやめよう

殺人はもうやめて、嘘はもうやめよう

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ

私の心の中のパレスチナ心

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ、ああ

自由、自由、自由、パレスチナ

[第 2 節]

自由は私たちの運命です

選択をしなければなりません

歴史の正しい側にいる方が良いです

誰も自由になれません NO

私たち全員が自由になるまで YES

もう十分です 十分です

この大量虐殺を止めなければなりません

[コーラス]

自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由、パレスチナ

殺人はもうない、嘘はもうない

殺人はもうない、嘘はもうない

自由、自由、自由、パレスチナ

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ、ああ

私の心の中のパレスチナ心

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ、ああ

私の心の中のパレスチナ

自由、自由、自由

パレスチナ、パレスチナ、ああ

私の心の中のパレスチナ

YOUTUBE で

Maher Zain ▪ Free Palestine

で検索すれば聞くことができます。

おいしいパレスチナ

ピクルスにしたカブのレシピ

カブは若くて柔らかいときは、ほんのり甘く、胡椒のような風味があります。大きくて古いカブは、より強い苦味を帯びることがあります。調理すると苦味が和らぎ、甘くて土っぽい味になります。

生のカブは、大根のようにサクサクと歯ごたえがあります。調理すると柔らかくなり、調理方法に応じて、クリーミーなものから少し固めのものまで、食感はさまざまです。

カブは低カロリーですが、ビタミンC、カリウム、繊維、抗酸化物質などの栄養素が豊富です。

カブはピクルスにも人気があり、特に中東料理では、ピリッとした風味とサクサクした食感になります。

ピクルスにしたカブは、塩水にビーツを加えることで鮮やかなピンク色になることがよくあります。ビーツはカブを自然に染めるので、見た目にも美しい調味料になります。

汎用性： これらのピクルスは、パレスチナ料理や中東料理でよく使われ、特にサイドディッシュとして、またはシャワルマ、ファラフェルなどのサンドイッチ、またはファウル ムダマの横に使われます。

健康上の利点： 他のピクルスにした野菜と同様に、ピクルスにしたカブは、自然に発酵させればプロバイオティクスの供給源になります。また、カロリーが低く、カブ由来の食物繊維、ビタミン、ミネラルも含まれています。

道具

まな板 - スライスするときにカブやビーツを置くのに使います。

鋭いナイフ - カブやビーツをスライスするため。

材料

カブのピクルスの材料： カブ、ビーツ、白酢、水、塩、砂糖。
カブ - 新鮮なカブは、どの食料品店やファーマーズマーケットでも見つけることができます。

赤ビーツ - 少量でピンク色になります。

水 - このレシピでは水道水を使用します。

白酢 - 酢は、カリカリとした食感を維持し、ピクルスにピリッとした風味を与えます。酢は酸性度が高く、食品の保存に役立ち、発酵プロセスに役立ちます。

海塩 - このレシピでは海塩を使用します。食卓塩を使用



してもかまいませんが、食卓塩は塩分が多いので、量を調整する必要があることに注意してください。

グラニュー糖 - 砂糖を加えると、乳酸発酵ピクルスのレシピに効果があります。少量の砂糖を加えると乳酸菌に栄養を与え、発酵プロセスをスピードアップできます。

手順

まな板でカブをスライス

ステップ 1 | カブを洗い、ナイフまたはピーラーで皮をむき、茎を切り、好みに応じて小指の大きさかそれ以上の大きさにスライスします。

ボウルにカブをスライス

ステップ 2 | ボウルにカブのスライスを入れ、大きじ 1~2 杯の塩を振りかけます。よく混ぜて 1~2 時間置きます。

まな板でビーツをスライス

ステップ 3 | 皮をむき、ビーツをスライスします。

瓶に入れたカブのスライスに塩水を注ぎます

ステップ 4 | 清潔な広口瓶にカブのスライスを入れ、その間にビーツのスライスを加えます。完全に浸るよう塩水を注ぎます。酢と砂糖を上注ぎ、瓶の蓋をしっかり閉めます。

2 つの瓶に漬けたカブを入れ、1 つは開けたまま、もう 1 つはまだ密封したまま、その横に漬けたカブを入れた小皿を置きます。

ステップ 4 | 室温で 3 ~ 5 日間放置します。



11月13日ハンダラ・センターは、PFLPの政治局員で立法議会議員のハリダ・ジャラルは、ラムラ刑務所の93日間の楽隊を受けていると発表



11月16日『フランスの裁判所は、40年間投獄されていたジョルジュ・アブドラを釈放した



11月10日東京で重信房子さんがパレスチナ問題について講演した



11月19日ヤセル・アラファト殉教20周年

今号の内容

再びトランプの時代に.....	1
トランプ内閣は親イスラエルの沼地.....	3
イスラエル軍はどれくらい崩壊に近づいているか.....	4
ネタニヤフはガザ北部で民族浄化をおこなっている.....	7
最も危険なオリーブの収穫.....	8
【ガザは永遠に我々の物だ】.....	9
ガザの飢餓を止めるキャンペーンの報告.....	11
パレスチナ日誌.....	12
パレスチナの愛した歌.....	14
おいしいパレスチナー.....	15
トピック.....	16



11月10日アムステルダムでイスラエル人のホリガンと新パレスチナのプロテスターと衝突



11月15日のギリシャでの地元のチームとイスラエルのマカビ・テルアビブの試合で



11月16日ジェノサイドを止める京都デモ